

# ビワ生育情報

千葉県  
平成21年10月号

## 平成21年7～9月の気象

平成21年7～9月の気象は表1に示した。7月の平均気温は第2及び第4半旬を除く全ての半旬で平年を下回り、月平均は24.0℃で平年より0.3℃、前年より0.7℃低かった。降水量は第5及び第6半旬を除く全ての半旬で平年を下回り、第3半旬には降雨がなかったため、月合計は126mmで平年の67%、前年の7.9倍であった。日照時間は第3半旬を除く全ての半旬で平年を下回り、月合計が126時間で、平年の72%、前年の61%であった。本年の関東地方の梅雨明けは、7月14日で平年より6日、前年より5日早かった。

8月の平均気温は第2半旬を除く全ての半旬で平年を下回り、月平均は24.6℃で平年より1.3℃、前年より1.2℃低かった。降水量は第2、第3及び第6半旬で平年を上回り、第4半旬には降雨がなかったが、月合計は161mmで平年の105%、前年の2倍であった。日照時間は第4及び第6半旬を除く全ての半旬で平年と同じか下回り、月合計は202時間で平年の92%、前年の1.1倍であった。

9月の平均気温は第6半旬を除く全ての半旬で平年を下回り、月平均は21.5℃で平年より1.5℃、前年より1.2℃低かった。降水量は第3半旬を除く全ての半旬で平年を下回り、月合計は87mmで平年の35%、前年の46%であった。日照時間は第4～第6半旬で平年を上回り、月合計は161時間で平年の1.1倍、前年の1.2倍であった。

表1 平成21年7～9月の気象(暖地園芸研究所)

月	半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(時間)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	22.2	22.6	22.1	10	37	11	7	21	26
	2	23.6	23.3	22.8	8	43	1	14	23	13
	3	24.0	24.3	24.8	0	37	0	36	25	35
	4	24.6	24.4	25.5	21	23	2	24	28	38
	5	23.8	25.1	26.5	64	24	0	14	33	50
	6	25.3	25.7	26.2	24	23	3	31	44	44
月平均/計		24.0	24.3	24.7	126	188	16	126	175	206
8	1	24.2	25.9	26.8	4	27	2	22	37	33
	2	26.4	26.0	27.3	62	23	0	24	37	46
	3	25.3	26.2	27.1	39	23	4	26	36	43
	4	24.4	26.0	25.7	0	24	0	52	35	36
	5	24.8	25.9	23.5	4	26	10	35	35	13
	6	22.8	25.6	24.8	53	31	64	44	40	16
月平均/計		24.6	25.9	25.8	161	154	79	202	220	187
9	1	22.5	25.1	26.0	1	27	3	24	31	38
	2	22.4	24.5	23.6	0	44	4	26	28	33
	3	22.1	23.7	23.5	39	29	0	22	25	25
	4	20.1	22.7	22.0	4	39	147	32	22	12
	5	21.5	21.6	23.5	0	47	3	30	20	20
	6	21.3	20.4	19.0	44	61	34	27	20	4
月平均/計		21.5	23.0	22.7	87	247	190	161	146	133

## 台風による被害を受けた樹の管理

10月1日現在、3個の台風が日本列島に上陸または接近した。8月31日に台風11号が関

東に接近し、最大瞬間風速は25.7m(館山測候所調)を記録したが、幸いなことにビワ産地では生産に差し障りが出るような大きな被害は発生しなかった。強風によって樹が倒された場合には樹を起し、損傷程度に応じて枝を切りつめる。

起こせない樹はそのまま栽培を続けるが、管理しやすいように枝を整理し、倒伏によって根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復をはかる。このときバーク堆肥と一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。紋羽病の恐れのあるところは農作物病害虫雑草防除指針に従って防除する。

## 11月の管理

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせたい。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

### 摘房・摘蕾

11月から12月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では1樹の全新梢数の半数の枝に花房を残す。発育不良の花房、混み合った花房等の不要な花房を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房をすると、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、樹内の花房数が少なくなるので翌年の摘果作業が軽減される。

摘房と同時に、残した蕾を摘蕾する。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝(花房の枝)の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は蕾の充実を促すので摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmの時に摘蕾するのが最も有効で、開花期の延長を図ることができる。寒害を受けやすい園ではこの時期を逃さないように早めに摘蕾を行う。

### アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシは緑色大形のアブラムシで、ビワの葉裏の主脈にそって並んで加害する。寄生した葉は紅(黄)葉し、次々と加害しながら繁殖していくので短期間のうちに、甚だしい落葉を見ることがある。また排泄物はすす病を誘発する。

防除は発生状態を見て随時行うが、発生初期に行うのが効果的である。11月はナシなどから移ってきて繁殖期に入るので、この時期の防除は春の発生を抑えるために有効である。防除に当たっては、農作物病害虫雑草防除指針に従って行う。

## 樹及び花房の発育

花房の発現期は表2に示した。「楠」が9月12日で平年及び前年より2日早かった。「大房」が9月23日で平年より4日、前年より6日遅かった。「田中」が9月14日で平年より1日早かったが、前年より2日遅かった。「大房」を除いて平年よりやや早いのは秋の訪れが早い影響と考えられる。

夏枝及び秋枝の発生は平年並みで樹の生育も順調である。

表2 花房発現期(暖地園芸研究所)

品 種	本 年 (月.日)	平 年 (月.日)	前 年 (月.日)
楠	9.12	9.14	9.14
大 房	9.23	9.19	9.17
田 中	9.14	9.15	9.12

平年：1983年～2008年の26年間の平均

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 電話0470-22-2961】  
※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>